

# 浜通り服部家の運営におけるコンテンツ企画の調査研究について

静岡大学 地域創造学環 焼津・浜通りフィールドワーク

(教員)太田隆之

(3年生) 佐々木啓人・武田葉奈・山口みどり

(2年生) 芝原一貴・仲宗根利恵・松本侑

(1年生) 小名陽日・田畑晴花・長瀬裕哉・三村花

## 1 要約

焼津発祥の地である浜通り地区に昨春オープンしたゲストハウスの活用を促すことを通じて、交流人口の増加を図り、浜通り地区そして焼津市の活性化を図るべく、地域調査や先進地視察を行ってゲストハウスの活用案や可能性について検討した。昔の焼津の面影を残す建物や街並みはそのままに、浜通り地区やその周辺の散策コースを設定するとともに、観光客だけではなくワーケーションの受け入れも視野に入れてゲストハウスを活用することが、浜通り地区の活性化の手がかりになると考える。

## 2 研究の目的

人口減少が進展する焼津市では、第2期総合戦略で地域資源を活用した交流の推進等を市の施策の基本的方向の1つに掲げている。こうした中で、焼津発祥の地である浜通り地区ではゲストハウスが始まった。本事業では、地域調査や先進地視察を行いながらゲストハウスの可能性を学生の視点から検討し、利用者増を目指した活用のためのアイデアを、そして今後の浜通り地区ならびに焼津市のまちづくりに向けたアイデアを提示することを目的とした。

## 3 研究内容

事例として注目する浜通り地区は、本学で地域創造学環(学環)が始まった2016年度から科目として立てられた「フィールドワーク」で学環がフィールドワークの対象地の1つである。2016年度から18年度にかけて、浜通りフォーラムに参加する皆さんや焼津市役所の皆さんとともに「浜通り活性化計画」ならびに浜通り地区の旧家である「服部家」を地域資源として活用する「服部家保存活用計画」の作成に関わる機会をいただいた。その後リノベーションを経て、2021年春にゲストハウス「帆や」が完成する。「服部家」は焼津の基礎を築いた「焼津水産翁」の1人である服部安次郎氏の生家であるとともに、現在のしずおか焼津信用金庫の原点の1つであった焼津生産組合を設立した服部亀吉もゆかりのある建物であり、焼津を象徴する地域資源の1つであるとともに浜通り地区の再生・発展の拠点と1つとなることが期待されている。

本事業では、これまでに取り組んできた上記の活動を踏まえて、浜通り地区の現状と課題と新たにできたゲストハウスの可能性を把握するとともに、ゲストハウスを利用した先進事例を調査し、今後のゲストハウス運営ならびに同地区のまちづくりの取り組みへの提言を行うことを試みた。

## 4 研究の成果・課題

### (1)当初の計画

上記のこれまでの活動を踏まえ、本事業では以下の活動を行うことを計画として立てた。

- ・ゲストハウスの調査と宿泊による利用ならびに地域調査
- ・事業者、住民、焼津水産高校の皆さんとのワークショップ

- ・ゲストハウス等を活用した地域活性化に取り組んでいる県内外の先進地調査

## (2) 実際の内容

事業の評価につき、Aを予定通り、Bを内容の一部修正、Cは中止という評価を行うこととなっている。本事業では当初の計画で実施できた事業とできなかった事業があったため、B評価とする。ゲストハウスならびに周辺地域の調査、県内2か所の先進地視察を行うことができた一方で、コロナ禍における活動の制限やあったことやスケジュールの調整ができなかったこともあり、ゲストハウスでの宿泊を伴った利用や住民の皆さんとのワークショップができなかった。焼津水産高校の皆さんとの活動は時期を遅らせて行うこととなった。

## (3) 実績・成果と課題

本事業の主な実績として以下の2つを挙げる。

- ・ゲストハウスならびに浜通り地区の調査



2年生、3年生のメンバーで市観光協会のレンタサイクルを利用し、浜通りを含むエリアでレンタサイクルを利用してサイクリングを行った。初めて自転車で浜通りやその周辺をめぐる結果、自転車で浜通り地区から行動範囲を少し広げると、港の景色や海辺の公園、港の食堂といった焼津ならではの魅力を堪能できることがわかった。

その後、秋より新たに加わった1年生のメンバーとともに、浜通りの資料を手に浜通りのまち歩きを行った。2020年から今日までのコロナ禍の影響で浜通り地区になかなか行けなかったことから、原点を確認する意味で浜通りの史跡をたどり、浜通りの街並みや通りの様子をメンバーとともに話し、確認しながら歩いた。

「帆や」の調査では運営事業者の良知樹園様にご案内いただき、施設の見学を行うとともに、オープン前後の改修の取り組みや運営状況についてお話を伺った。かつての「服部家」の面影をほぼそのままの形で残すとともに、キッチンから中庭にかけて開放的な空間が広がっており、魅力的な施設であった。オープン後の運営状況について、食と健康に関する活動に取り組みされてきた経緯や浜通りの皆さんや市行政と連携しながら運営に取り組まれているお話を伺い、意見交換を行った。

- ・先進地視察

上記のゲストハウスや地域調査の結果を検討し、「ワーケーション」の視点からゲストハウスの利活用の検討を試みることにした。新聞報道などの情報を収集し、静岡県内でワーケーションの振興を始めた伊東市と御前崎市の皆様の取り組みについてお話を伺うとともに、ワーケーションを目的とした施設の見学をさせていただいた。



伊東市では国の支援を活用しながら、ターゲットとして設定した市外の主体向けに積極的な情報発信を行っていること、市内でのワーケーションに関する情報の共有に取り組まれていることを教えていただいた。その際、ワーケーション振興を図る上でのターゲットングを行い、ことを伺った。更に、ワーケーションを受け入れる組織体制を構築していた。

御前崎市では市が直面する課題への取り組みの1つとしてワーケーションを位置づけ、他の取り組みとも関連させながら推進しようとしていることを伺った。そして、モデル事業としてテレワークが可能なスペースに改修して確保し、市外の企業を招いてのモニターツアーを行い、市内の宿泊事業者と意見交換を行うなどの取り組みを行ってきたことを教えていただいた。そして、ワーケーションに取り組んでいる施設では、ワーケーションの実際の状況や観光とワーケーションの共通点・相違点についてお話を伺った。

以上の活動を踏まえて、本事業の成果としてゲストハウスの活用に関する提案を行う。まず、リノベーションを経て完成したゲストハウス「帆や」は、現在の施設をそのまま活かす形で、観光客とワーケーションの両方の受け入れを視野に運営を行っていくことを提案したい。その際、観光客は主に休・祝日で受け入れていき、ワーケーションは平日でも受け入れていく。両者を視野に入れることで、季節変動などの利用動向をめぐる変動を緩和することを目指していく。このことを通じて、浜通り地区ならびに焼津市における交流人口の増加に資していくことを目指す。

現時点で、ゲストハウスは両者の受け入れが可能であると考え。その上で、かつての「服部家」の面影を残す建物や部屋、ゲストハウスが閑静な住宅街の中にある現在の状況も活かし、じっくり休みながら仕事もできるゲストハウスとしてPRしていく。その際、PRを図る際に家族や情報関連の企業を対象とするなどのターゲットングを図るといいと考える。

但し、ゲストハウス単体で観光客やワーケーションを受け入れていくことは難しい。そこで、運営事業者を含む事業者、主体により可能であればワンストップ窓口となるような受入組織を作る。焼津市では市内にある倉庫群を活用したワーケーション振興の取り組みが起りつつあるため、そこにこのゲストハウスを加え、1つの受入組織を形成していく。

ゲストハウスについては、ゲストハウスを拠点とした徒歩や自転車による散策コースをいくつか設定することも提案したい。例えば、浜通りにある文化的・歴史的な資源を、浜通りならびに焼津における今日までの生活誌の一端を示す資源として位置づけ、それらをめぐる散策コースを設定する。また、行動範囲が広がるコースとして、浜通り地区の周辺にある周辺にある親水公園や小川港の食堂などもめぐるコースを設定する。自転車を利用したコースとして、市観光協会が作成する浜通り地区を含めた港側のサイクリングコースを積極的に活用する。

「帆や」がオープンして以降、料理教室やヨガなどの体験型プログラムを実施してきている。こうしたプログラムを活かすとともに、イベントとして実施するプログラムと常時体験できるプログラムを分け、双方のプログラムをいくつか立てて利用できることを提案する。後者には、漁港やその関連施設が近いことを活かし、食材を購入して調理ができたり、釣りを行ってゲストハウス内で釣った魚を調理するなどのプログラムもあるといいのではないかと考える。

ワーケーションを受け入れる場合には、こうした観光の要素が強いプログラムだけではなく、そこでビジネスが営める状況も可能になるといいと考える。例えば、ゲストハウスでニーズを有する市内企業と接点を持つ機会が設けられたり、マッチングを図るような機会があるといいのではないかと考える。市の課題と関連させて活用することを通じて、市の政策体系にゲストハウスの位置づけることができる。

次に、本事業の課題として、以上の提案に認められる課題と考えられる諸点を挙げたい。短期的な課題としては、観光客・ワーケーションを受け入れるワンストップ窓口となる受入体制の構築が課題になると考える。これにはゲストハウス等で体験できるプログラムの実施も含まれる。中・長期的な課題としては、浜通り内に食堂など食の機能が十分ではなく、これらを確保することが必要になると考える。また、活動を行う中で浜通りは住民の皆さんにとって主要道路の1つとなっており、交通量が多い印象を受けてきた。ゲストハウスの利用者が散策を行う場合に、交通量が多い状況は時に危険となることもありうることから、万が一の事態が起きないために、今後地域の皆さんとの調整が必要になるものと考えている。

#### (4) 今後の改善点や対策

改善点・対策に関わる課題として、ゲストハウスを核とする散策コースを検討することが挙げられる。サイクリングを経験することで港の風景や食堂のことを把握したこともあり、学生・若者目線の散策コースの検討をしていきたい。

## 5 地域への提言

今回の提案を考える過程で、コロナ禍以前に浜通りで夏に行われてきた「あかり展」が話題になった。「あかり展」の期間中に行灯が並べられ、夕方から夜になると昔ながらの町並みと合わさって印象的な景色が出来上がる。もしこうした景色が「あかり展」以外の時期にもできるなら、魅力的な散策コースができる。あかり展のような取り組みを行うことは容易ではないことは承知の上で、あかり展の時期以外にもこうした景色が実現できるといいのではないかと考えた。そして、レンタサイクルなど利用可能な自転車を設置することも提案したい。自転車が気軽に利用できるようになれば、焼津駅からゲストハウスまでの移動手段の選択肢が増える。

## 6 地域からの評価

ワーケーションには注目していたところであり、提案内容は興味深く感じた。体験型プログラムは充実させる方向で考えているが、情報発信の方法など課題があると考えており、その点は学生の皆さんにもご協力を願いたい(「帆や」運営事業者 良知樹園様より)。